

スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料に関する調査

A First Approach to Ainu-related Materials in Catalonia, Spain

カサド・パルド・ケラール (CASADO PARDO Queralt)

国立アイヌ民族博物館 エducーター (Educator, National Ainu Museum)

八幡巴絵 (YAHATA Tomoe)

国立アイヌ民族博物館学芸主査 (Senior Fellow, National Ainu Museum)

要旨

アイヌ関連資料のコレクションは日本国内外に多数知られているが、バルセロナ民族学博物館 (Museu Etnològic de Barcelona, 以下「MEB」) が所蔵するアイヌコレクションについては、ヨーゼフ・クライナーの「Ainu Collections in European Museums」に一部記載されているのみで、コレクションの総数やその詳細は研究されていないようであった。その詳細を明らかにすべく、本調査では MEB のみならずスペインのカタルーニャ州のアイヌ関連資料をリスト化することを目的とした。そのため、令和 5 年度に文献・資料の事前調査および現地調査を行った。その結果、4つのコレクション、そのうちの3つは彫刻家・民族学者であるエウダル・セラに関するものを明確化することができた。しかし、それらの資料の地域性や作者などの詳細を明らかにするためには、さらなる研究が必要であると考えている。

キーワード: スペイン国カタルーニャ州、アイヌ関連資料、バルセロナ民族学博物館、エウダル・セラ・イ・グエイ、アペル・フェノザ・イ・フロレンサ

Abstract

Although many collections of Ainu-related materials are known in Japan and abroad, the Ainu collection held by the Museu Etnològic de Barcelona (MEB) was only partially described in Josef Kreiner's "Ainu Collections in European Museums", and neither the total number of collections nor their details seem to have been researched. In order to clarify the particulars, this research aimed to compile a list of Ainu-related materials not only from the MEB but also from all of Catalonia, Spain. For this purpose, a preliminary study of documents and materials and a field survey were conducted in 2023. As a result, it was possible to identify four collections, of which three related to the sculptor and ethnographer Eudald Serra. However, further research is needed to clarify details such as the locality and authorship of these materials.

Keywords: Catalonia, Spain, Ainu, Museu Etnològic de Barcelona, Eudald Serra i Güell, Apel·les Fenosa i Florensa

1. はじめに

筆者らは、令和4年度に北海道白老町にある国立アイヌ民族博物館の特別展示関連イベントの講演にてスペインにアイヌ関連資料がないことに気が付いた。その後、ケラールがヨーゼフ・クライナー (Josef Kreiner) の「Ainu Collections in European Museums」にてスペイン国内にアイヌ関連資料があることを知った。しかしその詳細については、不明な点があるのではないかと考え、ケラール、八幡の両名は、令和5年度に国立アイヌ民族博物館の調査研究プロジェクトの予算を利用し、MEB およびエウダル・セラ・イ・グエイ (Eudald Serra i Güell)¹⁾ (1911-2002) の相続人コレクションにあるアイヌ関連資料について調査し、一次資料と二次資料を特定しリスト化することを目的とし実施したものである。

本稿は、その調査研究プロジェクトで得た成果をまとめ、考察を加えて、今後の課題について記す。

2. 先行研究と本調査研究プロジェクトについて

2-1. カタルーニャにおけるアイヌコレクションに関する先行研究

1983年から1986年にかけて、ボン大学 (ドイツ) のヨーゼフ・クライナーをコーディネーターとする研究者グループが、ロシアを除くヨーロッパの博物館に保存されている様々なアイヌコレクションを収集した最初の体系的な研究を行った (Kreiner 1993)。

この研究の中で、MEB というひとつの博物館で3点が確認されていることがわかった (Kreiner 1993: 272)。これは、1950年にアーティストのエウダル・セラによって寄贈された資料 (「Inv. No Exp. 17-7」) と、1957年に入手した MEB のセラ・コレクションからの2点 (「Inv. Nos. Exp. 70-716; 717」) である (Kreiner 1993: 291)。

しかし現実には、引用された研究に記載されている在庫番号は、資料の実際の収蔵番号とは一致しない：MEB 14-7 (1950年にエウダル・セラによって寄贈されたマキリ)、MEB 87-716a,b (1957年の日本への第一回資料収集旅行に入手した鞆付きマキリ)、MEB 87-717 (1957年の日本への第一回資料収集旅行に入手したイクパスイ) である。

残念なことに、またおそらく他のヨーロッパのコレクションに比べて MEB に保存されているアイヌの資

料の点数が非常に少ないこと、またスペインにアイヌの歴史や文化の専門家が少ないことのため、ヨーロッパにおけるアイヌ資料の収集という観点から、これらのコレクションに関する具体的な研究は行われていないのが現状である。しかし、MEB の日本コレクションに関する研究、あるいはアーティスト、コレクター、そして MEB の開館以来の協力者としてのエウダル・セラの活動という観点から分析すると、状況は多少変わってくる。

したがって、アイヌ民族と MEB に関連する情報を探すと、最も繰り返し言及されるのは、1947年に北海道でエウダル・セラによって制作され、1949年に MEB が入手したアイヌ民族の頭像の彫刻に関連するものである (Soriano 1991: 39)。これらの言及は主に、MEB の最初の数十年間の活動に関連する報道記事 (La Vanguardia 1953, Diario de Barcelona 1953, La Vanguardia 1965)、展覧会の図録 (Huera and Soriano 1991, Català-Roca and Rubert de Ventós 1992, Boronet 1998)、学術的な文章 (Gómez 2010: 213-214, Gómez 2011, Gómez 2013: 226, Bru 2016, Bru 2019, Bru 2020: 69) などに見られる。

これらの先行研究では、クライナーが記載した3点以外の資料についても言及されている。ムリエル・ゴメス・ブラダス (Muriel Gómez Pradas) の博士論文 (Gómez 2011) では、エウダル・セラの彫刻と、クライナーのリストにあるマキリとイクパスイの他に、2つのイクパスイ (MEB 87-856, MEB 152-652) が記載されている。1つは1957年の日本への第一回資料収集旅行で入手したものだが、最初はエウダル・セラの個人コレクションの一部だったようで、もう1つは1964年の日本への第三回資料収集旅行で入手したものである。しかし、MEB が保存するアイヌコレクションの他の資料、例えば MEB 280-9/10の箸のような資料があること、そしてカタルーニャに他のコレクションが存在することについても、より多くの情報を与えているのは、リカル・ブル・イ・トゥルイ (Ricard Bru i Turull) (1981-) である。ブル (Bru 2016) を通じて、カタルーニャ出身の彫刻家アペル・フェノザ・イ・フロレンサ (Apel·les Fenosa i Florensa) (1899-1988) とその妻ニコール・フロレンサ (Nicole Florensa) (1925-2012) が1966年に北海道を訪問し、白老訪問の際に宮本エカシマトクから贈られたイクパスイがエル・ヴェンドレイ (El Vendrell) にあるアペル・フェノザ美術館に保存されているのを知ることができる。

同様に、この文章を通じて、エウダル・セラがMEBによるアイヌの資料の収集に貢献しただけでなく、セラ自身がアイヌ資料の個人的なコレクションを作り、それが現在も個人の手で引き継がれていることがわかった。

同様に、MEBが保存する優佳良織(ゆうからおり)²⁾の中には、アイヌのものと誤認されているものがあることも、これらの論文の一部(Bru 2016: 214)や、MEBもその傘下に入っている民族学・世界文化博物館(Museu Etnològic i de Cultures del Món, 以下「MuEC」)のコレクション管理システムに記録されている情報から確認することができた。

そのため、言及した文献の内容を分析すると、アイヌ民族に関連する資料がある程度存在することがわかるが、これらすべてを網羅的かつ体系的に調査していないため、正確な数はわかっていない。そこで、あらためてスペイン国内に焦点をあて、アイヌ文化関連資料の所在調査とその全容を調査し、リスト化する必要性を筆者たちは考え、令和5年度に調査を行うために計画を立てた。

令和5年度に行った調査の主な目的は、主にMuECに収蔵されているアイヌ関連資料と、かつてのエウダル・セラの個人コレクションの資料をリスト化し、さらに、これらすべての資料に関する知識を広げることのできる一次資料と二次資料を特定することとした。

文献に記載されている資料は多岐にわたっている。アイヌ資料、アイヌ民族に関連する資料、アイヌ民族とは直接関係はないが北海道に由来する資料などである。ほとんどの資料がバルセロナ市内で確認されたにもかかわらず、エル・ヴェンドレイでもわずかながらも見られたことから、調査する地理的範囲と対象資料の種類を設定する必要があることに気づいた。

2-2. 調査研究プロジェクトの地理的範囲

調査の対象地域に関しては、資料の大半はバルセロナ市内に集中しているが、アペル・フェノザ美術館に保存されている資料は、現在のスペイン国の地域区分では異なる県に属するエル・ヴェンドレイにあることがわかった。したがって、調査範囲をバルセロナ市、あるいはバルセロナ県に制限を設定すると、もしかすると貴重な価値があるかもしれない資料の一部が除外されることになる。しかし他方で、スペイン全国に範囲を広げると、あまりにも広大な地域を対象にすることになり、そのほとんどでアイヌの資料が存在するという情報は得られなかった。

そこで、調査範囲をカタルーニャ地方とすることが最良の選択だと筆者は考えた。しかし、この範囲内にはフランス領カタルーニャも含まれる可能性があり、この地域からもアイヌ資料に関する情報は得られていない。そのため、最終的には現在のスペイン国内のカタルーニャ州に限定することとした。

2-3. 調査研究プロジェクトで対象としたコレクションと資料の種類

決定する必要があるもう1つの事項は、どのような資料やコレクションを研究に含めるかということであった。

コレクションに関しては、MuECやアペル・フェノザ美術館といった博物館施設に保存されているものを含めることは不可欠だった。しかし同時に、MEBのアイヌ資料コレクションの始まりでもあるエウダル・セラの個人コレクションもまた重要であり、これを無視することはできなかった。その結果、博物館に保存されているコレクションとは別に、かつてのエウダル・セラの個人コレクションに関連する個人所有のコレクションも調査の対象とした。

資料の種類に関しては、アイヌ民族の資料のみを研究対象とするか、アイヌ民族に直接関係する資料を研究対象とするか、あるいはアイヌ民族と何らかの関連性があるように見える資料を研究対象とするかという選択肢があった。しかし、未調査のままこのような選択をすることは、関連する可能性のある資料を無視する危険性があり、また、「優佳良織」という名称の一部がアイヌ語由来であるということ以上に、アイヌ民族と優佳良織の作品との間に関連性がないなど、この分野に精通していない人にとっては明白ではない問題を未解明のままにしてしまう危険性があった。

したがって、本調査研究プロジェクトでは上記の選択肢のうち3番目のもの、つまり、ある時点でアイヌ民族に関連して言及されたすべての資料を調査の対象とすることを選択した。さらにそれらを以下の4つのカテゴリーに整理した。

－アイヌ民族が作成したもの

このカテゴリーには、マキリ、イクパスイ、アットゥシ、木彫り熊、箸などを含む。

－アイヌ民族が対象になったもの

アイヌ民族の肖像画、彫刻、写真など。

－アイヌ民族に関連するもの

前項との境界が不明確な場合もあるが、アイヌ文

様をモチーフにした観光土産品などの大量生産品や、前項のアイヌ民族の肖像によらず、歴史的な版画や絵入り歴史書など、アイヌ民族の全般的な表象が見られるものを含む。

－アイヌ民族が住んできた地方に関わり、アイヌ民族に遠まわしに言及するもの

このカテゴリーでは、ほとんどが優佳良織である。

最後に、エウダル・セラの蔵書には1920年代のジョン・バチラー (John Batchelor) の文章を中心に、1940年代の他の出版物など、アイヌ民族に関する歴史的出版物がある (Bru 2016: 214) が、民具資料の全体把握を優先するため、これらの資料は本調査研究には含まれていない。

3. 調査結果

3-1. コレクションについて

前述したように、アイヌ文化関連資料を保存する機関は2つある。旧 MEB のコレクションを保存する MuEC と、アベル・フェノザ財団の遺産を保存、研究、普及するアベル・フェノザ美術館である。そして、同じ由来を持つ一連の個人コレクション、エウダル・セラの個人コレクションは、大きく2つに分けることができる：セラ家相続人とセラ家の子孫の手中にあるものと、リカル・ブルの手にあるもの。

この章では、それぞれのコレクションと、それを構成するアイヌの資料、そしてその持ち主について簡潔に紹介する。

3-1-1. MuEC : MEB のコレクション

1948年、バルセロナに民族学・植民地博物館が設立され、翌1949年に開館した (Museu Etnològic i de Cultures del Món 2021a)。最初の収蔵品はバルセロナ市内の他機関から集められたものだったが、1970年代まで続いた様々な資料収集旅行で入手した資料により、すぐに収蔵品が増加した。

1962年に産業・民衆芸術博物館と統合したが、1999年まで2つの博物館は統合と分離を繰り返し、その年に最終的に統合された。そして2017年、民族学博物館と世界文化博物館 (2015年設立) が合体し、現在の民族学・世界文化博物館が誕生した。

1950年代から1970年代にかけて MEB が行った資料収集旅行は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジアなど多様な地域に及んだ (Museu Etnològic i de

Cultures del Món 2021b)。本調査に関連するのは、MEB の職員や協力者を日本に派遣したもので、数回実施され (Huera 1991: 16-22)、そのうち3回はアイヌ民族に関連する資料を収集するためであった。

これらの MEB の日本への旅行の立役者は、彫刻家のエウダル・セラである。セラは、時には単独で、また時には博物館の館長であるアウグスト・パニェリヤ (August Panyella) やコレクターのアルベルト・フォルク (Albert Folch) に連れられて、これらの日本への旅行を行った。

第1回目は1957年で、1961年と1964年に第2回目、第3回目の旅行が続く。さらに、1968年にはオーストラリアとニューギニアへの資料収集旅行の途中で日本に立ち寄り、若干の資料を手に入れた。

MEB コレクションのうち、本調査で確認できたものは以下の通りである。

－1947年エウダル・セラ作の頭像4点

アイヌ男性の頭像2点 (MEB 3-1と3-1bis)、アイヌ女性の頭像2点 (MEB 3-2と3-2bis)

－マキリ2点 (MEB 14-7、MEB 87-716a,b)

－イクパスイ3点 (MEB 87-717、MEB 87-856、MEB 152-652)

－箸2点 (MEB 280-9/10)

－ネックレス³⁾1点 (MEB 397-3)

－着物のミニチュア1点 (MEB 280-7)

－木版画⁴⁾1点 (MEB 210-42)

－優佳良織⁵⁾41点 (MEB 280-8、MEB 281-159/281-198)

MuEC のコレクション管理システムに記録されている情報によると、MEB によるこれらの資料の入手方法は、下記の大きく3つに分類できる。

－バルセロナでの購入：

1947年エウダル・セラ作の頭像 (MEB 3-1と3-1bis、MEB 3-2と3-2bis)

－資料収集旅行での購入：

1957年の収集旅行で入手したマキリ (MEB 87-

716a,b) とイクパスイ (MEB 87-717、MEB 87-856)

1964年の収集旅行で入手したイクパスイ (MEB 152-652)

1968年の収集旅行で入手した木版画 (MEB 210-42)

－人や組織からの寄贈：

エウダル・セラ (マキリ MEB 14-7)

欧州美術クラブ (優佳良織の40点 MEB 281-159/198)

鈴木重子 (アイヌ文様の紹介リーフレットと共に「北海道民芸品 アイヌ細工 トミヤ」の箱に保存さ

れている着物のミニチュア MEB 280-7、優佳良
織の財布 MEB 280-8、箸 MEB 280-9/10)
ジャウメ・ブヴェー・イ・プジョール (Jaume
Bover i Pujol) (ネックレス MEB 397-3)

3-1-2. セラ相続人とセラ家コレクション

エウダル・セラ・イ・グエイは、バルセロナ生まれ
の彫刻家、民族学者であった (Teixidor 1979, Huera
1991)。1935年から1948年まで日本在留し、1945年から
大阪のアメリカ占領軍の付属学校で美術を教師するな
ど、さまざまな仕事を経験した。1947年、アメリカ占
領軍の任務で北海道を訪問することができた。日本か
らの帰国後、1949年から MEB との20年以上にわたる
協力関係が始まった。

生涯を通じて様々な旅をした結果、セラはプライ
ベート・コレクションも築き上げ、亡くなった2002年
には1500点以上の資料を保存していて、そのうちのか
なりの数は、現在も子孫の手によって保存されている
(Bru 2020: 72-73)。

アイヌ民族に関連するものは、1947年6月にセラが
函館を起点に登別、白老、札幌、旭川、近文と8日間か
けて行った旅⁶⁾に由来する。

これらは以下の資料である。

- 1947年エウダル・セラ作の頭像4点
- アイヌの男性2人の頭像3点、アイヌの女性の頭
像1点
- エウダル・セラ撮影のプリント60点
- エウダル・セラ作の絵11点
- 子供の絵7点

また、エウダル・セラによって撮影された写真のネ
ガ・フィルムとすべての権利は、相続人が保持してい
ることも分かっている。しかし、ネガ・フィルムの正
確な数については不明である。本調査では、資料を直
接資料調査することができず、セラ相続人とセラ家の
手元に残っている資料に関する情報を集めることがで
きたのは、リカル・ブルの協力のおかげである。

3-1-3. リカル・ブル・イ・トゥルイ個人コレクション

リカル・ブル・イ・トゥルイは、美術史の博士号を
持ち、19世紀と20世紀のカタルーニャ美術、ジャポニ
スム、カタルーニャとヨーロッパにおける日本美術
の研究を専門としている (Institut d'Estudis Catalans
2018, Bru 2024)。研究の一環として、エウダル・セラ
について長年研究し、作品のカタログ・レゾネと伝記

を制作している。

アイヌ文化やアイヌ民族への関心から、エウダル・
セラやセルス・ゴミス⁷⁾の個人コレクションからのも
の、また、その他の収集した資料のコレクションを構
築している。

令和5年度に実施した調査で確認した資料⁸⁾は、以
下の通りである。

- アットウシ1点
- 住吉平吉チシカ作の木彫り熊1点
- 「三国通覧図説」の写本1点
- 「アイヌ藝術」表紙1点
- エウダル・セラ撮影のプリント⁹⁾13点
- 木下清蔵撮影のプリント46点
- 木下清蔵撮影のネガ・フィルム82点
- 写真葉書26点
- トレーディングカード¹⁰⁾10点

エウダル・セラの個人コレクションに由来する資料
は、アットウシとセラ自身が撮影した写真である。一
方、木下清蔵の写真は、セラが1947年に北海道を訪れ
た際に入手したと考えられるが、ブルの手に渡る前は
セルス・ゴミスのコレクションであったため、写真葉
書と同様に、どの資料が誰のものかを正確に把握する
ことは困難である。住吉平吉チシカ作の木彫り熊、「三
国通覧図説」の写本、「アイヌ藝術」の表紙、アイヌ民
族をテーマにした10点のトレーディングカードについ
ては、ブルがその後入手した資料である。

3-1-4. アペル・フェノザ財団コレクション

アペル・フェノザ・イ・フロレンサは、バルセロ
ナ生まれのカタルーニャの彫刻家で、スペイン内戦
後、亡くなるまで活動していたフランスに亡命した
(Museu Apelles Fenosa 2024a)。その生涯を通じて、
パリ、バルセロナ、マドリードだけでなく、東京や大
阪など世界各地で個展やグループ展を開催した。1966
年、まさに日本初の回顧展を開催するのをきっかけに
来日し、北海道も訪れた。北海道旅行では札幌、登別、
洞爺湖、白老を訪れ、宮本エカシマトクに歓待され、
食事で歓迎された後、カムイに酒を捧げる際に使用し
たイクパスイを贈られた (Fenosa 2002: 45, Fundació
Apel·les Fenosa 2012: 38-39, Fundació Apel·les
Fenosa 2015: 56)。

アペル・フェノザ財団は、アペル・フェノザの未亡
人であり、ニコール・フェノザとしても知られるアー
ティストのニコール・フロレンサ (旧姓ダモッテ) の

呼びかけにより、1998年に設立された。財団の本部は、フェノザ夫婦の夏の別荘兼工房であった場所にあり、現在は2012年に開館したアペル・フェノザ美術館の本部でもある (Museu Apelles Fenosa 2024b, c)。

アペル・フェノザ財団は、1966年のフェノザ夫妻の日本旅行の結果として、以下の資料を保存している。

－イクパスイ1点

－写真 (プリント、ネガ・フィルム) 6点

これらの写真には、フェノザ夫妻が白老を訪れた際宮本家の人々と撮影した時の姿が写っている。最初の写真では、夫妻が自分たちの服を着ているが、その後、さまざまなアイヌの伝統衣装やアクセサリーを試着している様子も見ることができる。

3-2. コレクションの入手の背景

この文章の冒頭で、いくつかの論文と報道資料を参照したが、そこでは様々なコレクションの存在と、この著作で紹介されている様々な資料、そしてその作成と入手に関わった人々についての言及が見られる。

本調査では、これらの資料の大部分について、入手の動機、場所、金額、写真の被写体や彫刻の対象になった人物など、制作の背景や入手の方法に関する詳細な情報を得ることができる一次資料をいくつか確認することができた。

1947年の北海道旅行中にセラが制作・収集した資料については、いわゆる旅日記やセラ自身によるアレーリャ誌の記事のほか、主に MEB が行った展覧会や資料収集活動に関連するメディアに掲載されたいくつかの記事やインタビューなどがある。セラの日本滞在、特に北海道旅行は、その後の MEB の協力者たちが世界各地で民族の彫刻家として活動する際に、その先例として扱われてきた (Llopis 1964, Llopis 1966)。

MEB の資料収集旅行で入手したものに関しては、旅行計画からフィールド・インベントリーに至るまで、請求書を含むすべての書類を博物館が保管している。

令和5年度の調査では、これらの資料の存在を明らかにすることはできたが、すべてを調査することはできなかった。そのため、入手情報の詳細についてはさらなる調査が必要である。

アペル・フェノザ財団の資料については、ニコール・フロレンサの手書きのメモと、彼女が作成した亡き夫アペル・フェノザの伝記が主な情報源である (Fenosa 2002)。

最後に、リカル・ブルの資料については、彼自身の学術活動の関係で知っていたエウダル・セラとセルス・

ゴミスの個人コレクションのアイヌ関連資料が散逸されないようにするためにコレクションを始めた。その後、アイヌ民族への関心が高まり、現在ではコレクションの点数を増やしている。ブル自身が残した記録とそれに関する研究によって、資料の収集についての情報が得られている。

しかし、これらの資料が作られた、あるいは入手された背景を、資料の行き先 (この場合はカタルーニャ) の観点からだけでなく、出所、つまり北海道、特にセラとフェノザが訪れた土地の情報を含めて調査し、双方の視点から検討する必要があると考えられる。

次に、各コレクションが収集された、白老と旭川近文の情報を述べる。

3-2-1. 1940～1970年代の白老コタンと収集した資料について

まずセラが来訪した1947年のアイヌコタンについて、文献調査を行った。1947年の白老は、戦時中に減った来訪者が一転して増加していた (白老町1965)。この頃の白老コタンは、貝澤藤蔵と宮本イカシマトクが中心となり、来訪者の対応を行っていた (田辺1984)。コレクションの内容から、セラは白老地域においては宮本の協力のもと、収集を行い、木下写真館で1947年6月頃に創作活動を行ったと考えられる。

創作活動は白老で行ったが、登別に滞在し、そちらで森久吉や知里眞志保と知り合ったことが旅日記で記載されている (「Noboribetsu visitar Mr. Chiri, Mr. Mori」¹¹⁾)。

リカル・ブル・イ・トゥルイ所蔵から、白老にゆかりのある、住吉平吉チシカ作の木彫り熊1点について、本稿にて紹介したい (写真1)。チシカと名乗り、アイヌ文化伝承活動を行った人物については、これま



写真1 住吉平吉チシカ作の木彫り熊 リカル・ブル・イ・トゥルイ蔵

で不明であった。しかし2021年に刊行された『アイヌのくらし：時代・地域・さまざまな姿』において、チシカは住吉平吉という人物であることが新たに判明したためである。

本資料は、いわゆる「鮭背負い熊」と呼ばれるもので、台座の底面には「北海道洞爺湖温泉町遊覧記念 アイヌ家 チシカ作」と彫られている。この資料は、白老コタンで木彫りを行っていた住吉平吉(1900-1982)が製作したものであると想定される。住吉平吉は、1900年瀬棚生まれで、室蘭にて大工の仕事をし、1930年頃にはすでに森久吉、知里眞志保、森竹竹市らと親交があった人物である。

その後白老に引っ越ししてからは、木下写真館のお抱え大工として働き、その一方で熊の木彫りで生計を立てていた。木下写真館では、観光はがきが売っていて、住吉はその封筒に「住吉ちしか」とサインをしていたという(八幡2021: 47)。

1951年頃に白老に来て以降、貝澤藤蔵(ウサシカン)の観光チセにて解説員としてアイヌ文化の解説を行うことがあったという。また、白老だけではなく、森竹竹市らとともに北海道洞爺湖町の昭和新山アイヌ記念館の観光チセにて、観光客の受け入れを行っていた。

木彫り熊は、製作者のサインや製作日または販売日が彫りこまれることもあり、観光土産としてのニーズは高かったと考えられる。本資料から住吉も販売日、販売地、サインをサービスの一環として彫りこんでいたことが考えられる。

八幡が2022年に実施した、住吉の遺族への聞き取り調査では、遺族の手元に住吉に関する資料は少ないことが挙げられていた(八幡2021: 47)。観光地にて販売を行っていたことから、来訪者が購入し各地に持ち帰ったことを考慮し、各地に散在していると考えられる。そのため、住吉平吉のサインがあり、本人が製作

したと考えられるこの木彫り熊は、非常に貴重な資料といえよう。

フェノザ夫妻が宮本トモラムのもとを訪れた、1966年の白老コタンは、白老市街地からポロト湖畔に観光機能が移転し、「ポロトコタン」として開館した翌年である。ここでフェノザ夫妻は「宮本エカシマトク」とサインが施されたイクパスイを所有していることに注目したい(写真2)。

リカル・ブルの論文(Bru 2016: 212)では、この宮本エカシマトクを、宮本芳雄(トモラム)として紹介していた。

しかし、ここで注すべきは、白老のアイヌ観光において、「宮本エカシマトク」を呼称していた人物は3名いたことである。宮本イカシマトク(伊之助)(1876-1958)、宮本芳雄(エカシマトク、トモラム)(1907-1967)、宮本登(エカシマトク)(1913-1988)である。フェノザ夫妻が会ったのは、伊之助の長男の芳雄または次男の登のいずれかが考えられる。なお、先行研究や文献において、宮本イカシマトク(1876-1958)の表記は、「エカシマトク」「エカシトク」「イカシマトク」などがある。直系子孫である大須賀るえ子の研究にて「イカシマトク」と統一されていることから、本稿ではそれを踏襲する(白老 楽しくやさしいアイヌ語教室 2013)。

このポロトコタン開業時における、宮本家の「エカシマトク」の呼称の情報整理を、今後の課題としたい。

3-2-2. 1947年の近文コタンについて

1947年の近文コタンには、川村カ子トアイヌが父より引き継いだ私設のアイヌ博物館があった。この頃の近文コタンでは明治末期より手工芸品の製作が盛んとなり、その中で熊の木彫りが代表となった。さらに1945年以降、近文では米軍のデザイナーの指導を受



写真2 サインの入ったパスイ アペル・フェノザ財団蔵



写真3 砂沢ベラモンコロ作と推定される樹皮衣 リカル・ブル・イ・トゥルイ蔵、旧セラ個人コレクション

け、民芸活動が活発になり、輸出等のために製作したとある(旭川市史編集委員会編1959: 281-283)。セラは、近文を訪問した際、間見谷良雄の頭像を製作している。間見谷は1957年に工芸組合を創設した一人として、近文における民芸活動の中心を担っていた。このことから、セラは近文コタンでは本彫ができる人物と交流を持ち、創作活動を行っていたと考えられる。

セラ個人コレクションのなかに、アツウシ(樹皮衣)がある(写真3)。これはベラモンコロ作とされている。ベラモンコロは、砂沢ベラモンコロ(1897-1971)で、1968年刊行の『アイヌ服飾調査』にて、上川地方で協力した人物である(『エカシとフチ』編集委員会1983: 37)。アイヌ服飾調査では、「(略)今日までアイヌ衣服をたくさん製作し、現在でも数枚所持している。アツシ機織、エムシアツ、タラなどの編み細工もできる。」と紹介されている(児玉・伊藤1968: 56-57)。この資料は、川村カ子トアイヌ記念館周辺にてセラが入手したと考えられる。また、セラが少なくとも1泊は川村カ子ト自宅に宿泊したことは日記でわかっている。

4. おわりに

令和5年度に実施した調査では、MEBなどのアイヌ関連資料をリスト化し、MEB資料収集旅行の書類、セラの北海道旅日記、報道機関と、論文や展覧会の図録などという一次資料と二次資料を特定する目的は達成できた。しかしながら、セラ相続人コレクションは、直接資料調査できなかった。とはいえ、スペイン国内において、製作年、製作地、製作者が判明している資

料が新たに明らかになったことは、本調査研究での成果といえよう。

なぜならば、J. クライナーに始まる従来のヨーロッパの博物館に収蔵されるアイヌコレクションの調査に加えて新たな資料やコレクションの存在が見えるようになったからである。

今後の課題としては、セラ相続人コレクションの全容把握を行うこと、MEBの日本への資料収集旅行の全ての書類が確認すること、日本国内の現地調査を行うことで1947年と1966年の白老と1947年の旭川近文における資料収集についての不明な点を解決することである。

上記の課題を解決するために、追加調査を行い、資料全容の把握と収集地、製作者などの基礎情報を合わせたさらなる検討を行いたい。このことから、スペイン国内のアイヌ民具コレクションの形成史が明らかになるとともに、北海道のアイヌ観光における、一般旅行者とは違う属性を持つ、研究者やアーティストといった人物を受け入れる態勢の実態が明らかとなり、地域史や資料の情報等を、地域コミュニティへ還元することも視野に入れて調査を継続したい。

謝辞

本稿は、国立アイヌ民族博物館調査研究プロジェクト2023B01「スペインのカタルーニャ州におけるアイヌ関連資料の調査」(代表: カサド・パルド・ケラール)の成果の一部である。

本調査研究プロジェクトに当たり、リカル・ブル・イ・

トゥルイの貴重な協力、ならびに民族学・世界文化博物館とアペル・フェノザ美術館とそれらのチームの協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

Les autores volem agrair la inestimable ajuda de Ricard Bru i Turull, sense la qual el present projecte de recerca no hauria estat possible. També volem donar les gràcies al Museu Etnològic i de Cultures del Món i al Museu Apel·les Fenosa, així com als seus respectius equips, per la seva col·laboració i per obrir-nos les portes de les seves institucions.

注

- 人物の名前表記の順番について
この文章では、カタルーニャ語とスペイン語の名前は、「名・両親の姓(姓・姓)」の順で表記している。カタルーニャ語の場合、姓と姓の間に「i」(「と」の意味)をつける。日本語の名前は、「姓・名」の順で表記している。著者の名前は、本研究紀要の規則で表記している。
- 優佳良織は、旭川出身の染織家、木内綾(1924-2006)によって1962年に生まれた。北海道の美しい自然と気候風土をモチーフとし、絵を描くように織りあげた色彩豊かな織物である。素材となる糸は、羊毛を中心に、絹や木綿などが組み合わせられている。優佳良織の最大の特徴は糸づくりにある。一つの作品に200色以上もの色を使うため、染めた糸を交ぜ合わせる独自の工法で紡いだ糸を使って製作される(優佳良織2023)。
- アイヌの伝統的な文様を持たない木製のペンダントであり、入手に関する詳細な情報がない限り、その出所を確認することは非常に困難である。
- 再利用された紙に糊付けされている「北海道鯨大漁概況之図」の其4～7である。
- 財布5点、長財布5点、かばん4点、ハンドバッグ1点、チョッキまたはベスト6点、マフラー9点、ネクタイ3点、テーブルセンター4点、羽織1点、帯2点、下駄1点である。
- セラの北海道旅日記に残された手書きのメモと、1965年にアレーリャ誌に書いた3つの記事(Serra 1965a, b, c)を通じて、その期間とルートがわかっている。詳細はBru 2016, Bru 2019を参照。
- セルス・ゴミス・イ・セルダニョンス(Cels Gomis i Serdañons)(1912-2000)は、カタルーニャの著名な民俗学者の孫であり、アパンギャルドな写真家兼アートプロモーターの弟であった。友人のエウダル・セラとともに日本に暮らし、日本の民芸品や民藝運動、アイヌ民族への関心を共有していた(Bru 2017)。プルによると、セルス・ゴミスはコレクターとしては、アイヌ資料は持っていなかったが、エウダル・セラによって撮影された数枚の写真、写真葉書、アイヌ民族に関する数冊の出版物を保管していたとのことである。
- 2024年、ブルがイクバスイ2点でコレクションを増やしたことは知っているが、これは本調査終了後に入手したものであり、調査することができなかったため、リストには含めていない。
- 写真のネガ・フィルムとエウダル・セラが撮影したすべての写真の権利は、セラ相続人が所有していることを記憶しておくべきである。
- スペインでは、おそらくフランス起源と思われる(Matesanz 2013: 14)「cromo」と呼ばれるトレーディングカードの収集現象が20世紀を通して勢いを増し、今日まで続いている。トレーディングカードは多くの場合、テーマごとにつくられ、アルバムに貼り付けられるようにデザインされている。最も一般的なテーマはスポーツや漫画・アニメに関連するものだが、歴史的なテーマや動植物に関連するもの、世界中の文化や民族を紹介するものも出版されていた。後者のテーマのコレクションの中には、アイヌ民族に関連するトレーディングカードがある。

- 「VIAJE HOKKAIDO 1947 / VIAJE MARRUECOS 1952-1954-1956」(北海道旅 1947年/モロッコ旅 1952年 1954年 1956年)、16日条セラ相続人蔵

参考文献

- Boronet, C. (編)
1998 *Eudald Serra. Rastres de vida*. Ajuntament de Barcelona, Institut de Cultura de Barcelona.
- Bru Turull, R.
2016 Eudald Serra i el poble ainu. L'estada a Hokkaidō de 1947. *Locus amoenus*, 14: 199-214
2017 En torno al movimiento *mingei*. Cels Gomis y el coleccionismo de arte popular japonés. *Goya* 359: 164-181.
2019 El escultor Eudald Serra en Japón (1935-1948). Apuntes para una biografía artística. *Goya* 366: 68-87.
2020 La col·lecció d'art de cultures del món d'Eudald Serra, un escultor viatger. In *Mercat de l'art, col·leccionisme i museus 2019*, pp. 59-85. Bellaterra: Universitat Autònoma de Barcelona. Servei de Publicacions.
2024 RICARD BRU I TURULL. CV Ricard Bru i Turull. <https://ricarbd.wordpress.com/about-me/> (2024年9月2日 閲覧)
- Català-Roca, F., and Rubert de Ventós, X.
1992 *Eudald Serra. Escultures*. Barcelona: Galeria Brok.
- Diario de Barcelona (編)
1953年3月18日 Las actividades del Museo Etnológico. *Diario de Barcelona*, p. 2. Barcelona.
- Fenosa, N.
2002 *Apel·les Fenosa. Biographie*. El Vendrell: Fundació Apel·les Fenosa.
- Fundació Apel·les Fenosa (編)
2012 *Fenosa i el Japó*. El Vendrell: Fundació Apel·les Fenosa.
2015 *La col·lecció Fenosa*. El Vendrell: Fundació Apel·les Fenosa.
- Gómez Pradas, M.
2010 Las colecciones japonesas del Museu Etnològic de Barcelona. Las colecciones de Eudald Serra. In *Cruce de miradas, relaciones e intercambios. Colección Española de Investigación sobre Asia Pacífico*, pp. 211-230. Granada: Editorial Universidad de Granada.
2011 *El movimiento Mingei en las colecciones del Museu Etnològic de Barcelona. El caso de los kyôdo-gangu o juguetes populares y tradicionales japoneses*. Universidad de Zaragoza.
2013 La mirada de Eudald Serra. El artista a través de las colecciones de cerámica japonesa del Museo Etnológico de Barcelona. *Archivo Español de Arte*, LXXXVI (343), 221-236.
- Huera, C.
1991 Eudald Serra i el Museu Etnològic de Barcelona. In *Escultures antropològiques d'Eudald Serra i Güell*, pp. 7-30. Barcelona: Fundació Folch. Ajuntament de Barcelona.
- Huera, C., and Soriano, L.
1991 *Escultures antropològiques d'Eudald Serra i Güell*. Barcelona: Fundació Folch. Ajuntament de Barcelona.
- Institut d'Estudis Catalans
2018 Bru Turull, Ricard. In *Diccionari d'historiadors de l'art català, valencià i balear*. https://dhac.iec.cat/dhac_p.asp?id_personal=6 (2024年9月2日閲覧)
- Kreiner, J.
1993 Ainu Collections in European Museums. In *European studies on Ainu language and culture*, pp. 271-314. München: iudicium verlag.
- La Vanguardia (編)

- 1953年3月15日 Dibujos infantiles japoneses. *La Vanguardia*, p. 13. Barcelona.
- 1965年7月16日 Nueva sala japonesa del Museo Etnológico. *La Vanguardia*, p. 20. Barcelona.
- Llopis, A.
- 1964年4月5日 Barcelona en los Andes. Serra Güell, escultor de los aborígenes. *La Vanguardia*, p. 45. Barcelona.
- 1966年3月24日 Barceloneses en Nueva Guinea. Fin de un viaje: Eudaldo Serra, escultor de los nativos. *La Vanguardia*, p. 53. Barcelona.
- Matesanz Mateu, J.
- 2013 *La vida en cromos. Los álbumes de nuestra infancia*. Palma de Mallorca: Dolmen.
- Museu Apelles Fenosa
- 2024a Apelles Fenosa. https://www.museuapellesfenosa.cat/ca/museu-2-2/#apelles_fenosa (2024年8月31日閲覧)
- 2024b La Fundació. <https://www.museuapellesfenosa.cat/ca/fundacio/> (2024年8月31日閲覧)
- 2024c Museu. Història. <https://www.museuapellesfenosa.cat/ca/museu-2-2/#historia> (2024年8月31日閲覧)
- Museu Etnològic i de Cultures del Món
- 2021a Història del museu. <https://www.barcelona.cat/museu-etnologic-culturesmon/ca/el-museu/historia-del-museu> (2024年8月29日閲覧)
- 2021b Les campanyes i els viatges. <https://www.barcelona.cat/museu-etnologic-culturesmon/ca/coleccions/historia/campanyes> (2024年8月31日閲覧)
- Serra i Güell, E.
- 1965a, 3月 Els Ainos. *Alella*, Època 3a (49) : 4-5.
- 1965b, 4月 Els Ainos. *Alella*, Època 3a (50) : 4-5.
- 1965c, 5月 Els Ainos. *Alella*, Època 3a (51) : 4-5.
- Soriano, L.
- 1991 Catàleg. In *Escultures antropològiques d'Eudald Serra i Güell*, pp. 31-86. Barcelona: Fundació Folch. Ajuntament de Barcelona.
- Teixidor, J.
- 1979 *Eudald Serra*. Barcelona: Fundació Folch.
- 旭川市史編集委員会編
- 1959『旭川市史第一巻』pp281-283、旭川市：旭川市役所。
- 『エカシとフチ』編集委員会
- 1983『創立二十五周年記念出版 エカシとフチ 資料編 文献上のエカシとフチ』p37、札幌：札幌テレビ放送株式会社。
- 児玉作左衛門・伊藤昌一
- 1968『アイヌ服飾の調査』北海道教育委員会編『アイヌ民俗資料調査報告』pp56-57、札幌：北海道教育委員会。
- 財団法人白老民族文化伝承保存財団
- 1988『「シラオイコタン」木下清蔵遺作写真集』白老：白老民族文化伝承保存財団。
- 白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室
- 2013『白老アイヌの研究Ⅰ-宮本イカシマトク・妻サキを中心に-』白老：白老 楽しく・やさしいアイヌ語教室
- 白老町
- 1965『白老町史』白老町（北海道）：白老町役場。
- 田辺忍
- 1984『白老今昔物語』白老：田辺眞正堂。
- 満岡伸一
- 2003『アイヌの足跡』白老：財団法人アイヌ民族博物館（初出は1924年、白老：眞正堂）。
- 八幡巴絵
- 2021「瀬棚アイヌ 住吉平吉」『アイヌのくらしー時代・地域・さまざまな姿』pp44-47、札幌：公益財団法人アイヌ民族文化財団。
- 優佳良織
- 2023「優佳良織とは」https://yukaraori.com/?page_id=7 (2025年2月10日閲覧)